

The Membership of the National Museum of Modern Art, Kyoto

京都国立近代美術館
友の会会報

2006
AUTUMN
第11号



伊藤若冲筆《紫陽花双鶏図》

展覧会の

見どころ

プライスコレクション—「若冲と江戸絵画」展

The Price Collection: JAKUCHU and The Age of Imagination

9月23日[土・祝]—11月5日[日]

10月9日を除く毎月曜日および10月10日(火)休館

アメリカ・カリフォルニアのプライスコレクションは、魅力に満ちた江戸絵画のコレクションとして世界的に知られています。ジョー・プライス氏は、半世紀前に訪れたニューヨークの画廊で、伊藤若冲の初期作品《葡萄図》と出会い心を奪われ、日本の美術作品の収集を始めました。日本語を解さず、日本美術については日本それ自体に対して詳しい知識を持たなかったプライス氏は、画家の名前や他人の進言に左右されることなく、自らの「眼を悦ばす」という美意識に基づいて収集活動を続けてきました。その結果、プライスコレクションには、当時美術史家にも見過ごされていたような、江戸時代の個性豊かな画家たちの作品が集うようになったのです。中でも注目されるのが、プライス氏の財団の名前「心遠館」が伊藤若冲の堂号に由来していることからわかるように、彼のコレクションの契機となった若冲の作品でしょう。本展覧会では、第3章を「エキセントリック」と題し、若冲と曾我蕭白らの作品をまとめてご紹介しています。

展覧会は5章からなり、第1章は「伝統的絵画」と題して、江戸時代の絵画に影響を与えた狩野派や琳派の優品を、第2章では「京の画家」と題し、円山応挙や長沢芦雪ら、近代の京都画壇にまで影響を及ぼした円山四条派の作品を紹介します。そして第3章で円山四条派の枠を超えて独自の画風を展開した「エキセントリック」な画家たちを紹介した後、第4章では「江戸の画家」として肉筆浮世絵の艶やかな世界を紹介します。そして最後の第5章で、酒井抱一や鈴木其一を中心とした「江戸琳派」で江戸の粋を堪能していただきます。

プライス氏は、自らが収集された作品を、それらが制作された時代と同じような環境で鑑賞すべき（して欲しい）という持論をお持ちです。それは、日本の伝統的な室内空間での鑑賞環境を展覧会で実現させる、という課題を意味します。そこで、今回の展覧会では、作品の保全を十全に考慮した上で、展示ケースのガラス越しではない露出展示を部分的に行います。また1階には、疎水側に面し大きな窓がある空間の特徴を生かし、灯り通りの障子をはめた床の間空間を設え、自然光によって酒井抱一の《十二か月花鳥図》をご鑑賞いただきます。床の間の壁は、桂離宮

と同じ色である鷹峯の土を使った本聚楽壁となっています。自然の光と自然の土、そして作品のコラボレーションから生まれる潇洒な空気を味わっていただければと思います。

本展覧会には、プライスコレクションの約 600 点の絵画作品から、選りすぐりの 109 点が出品されますが、そのうち 8 点はコレクションギャラリーの一角に設けた「親子のギャラリー：鬼と江戸の動物たち」というスペースに展示されます。また会期中は講演会のほか、日本近世絵画史を専攻する大学院生たちによるテーマ別のギャラリーガイドをほぼ毎日開催します（詳しくはHPをご覧ください、当館にお問い合わせ下さい）。本展が、作品だけではなく、展示空間、関連イベントを通して、江戸絵画の魅力を堪能し、さらには現在の私たちにとっての江戸絵画の意味を考える貴重な機会となる、と確信しています。

(池田裕子・主任研究官)



酒井抱一筆《十二か月花鳥図》より「五月」(右)と「八月」(左)

もう一つの鶏

時計のなかった時代は、鶏は随分役割が大きかっただろう。家禽としての歴史は、いつ頃からとも知れない古代のことと思われる。世界の神話に多く登場することからも、それは想像できる。日本の神話では、天の岩戸の話が有名だが、京都の祇園祭に引かれる鶏鉾は、三皇五帝などと呼ばれる中国の神話の時代の故事が名前の由来である。堯の時代は国がよく治まって、争いごとがなく、その為、訴訟のときに打つ太鼓も出番がなく、苔むして、鶏が巢を作ったという。要するに、善政のシンボルを鉾に飾っている訳である。風見鶏はヨーロッパの中世以来の屋上の景物だが、夜にやってくる悪魔を払うなどの言い伝えがある。このように、大昔から人間の身近に飼われた鶏は、朝を呼ぶ、闇から光を取り戻す使者的な色合いが強く、ハッピーなものシンボルにされてきたようである。そのためか、絵画の上でも、鶏は慶賀や新年の象徴として、しばしば登場する。若冲が画いた東天紅や蜀鶏の他、小国鶏、矮鶏（ちゃぼ）、軍鶏（しゃも）、白色レグホン、烏骨鶏、尾長鶏等、多くの種類が画題となっている。近代の日本画では、竹内栖鳳の〈蹴合〉、入江波光の〈雨の烏骨鶏〉など、京都画派の画家に名作がある。

鎌倉時代に画かれた、いわゆる六道絵の〈地獄草紙・鶏地獄〉や、中国南宋の僧蘿窓の作〈竹鶏図〉も、たかが鶏とは、とても思えない凄さを見せる。一方は浄土教の教える「地獄」に棲む鶏。罪人の目玉を啄むという空想上の鶏であるが、絵師の画いた鶏は鳳凰に似て、怖しいと同時に、気高き見ええる。「地獄」という恐ろしくも華麗な世界を彩るにふさわしい貫禄に満ちている。

もう一方の中国南宋画の鶏は、蜀鶏かと思われるが、眼光するどく、静かなうちにも、漲る力が感じられる。あかときの、幽暗の竹林に居て、やがて時を告げる。それをじっと耐えて待つがごとき面構えである。日本人が好む牧溪は、西湖の六通寺の開山といわれ、蘿窓はその門下といわれるが、禅僧らしい朴訥で勁い表現は、若冲の鶏を堪能した後、観てみたいもう一つの鶏図である。作品には画賛



地獄草紙 鶏地獄 原家本 奈良国立博物館

があって、〈意在五更初 幽々潜五徳 胆願候明時 東方有精色〉と読める。刻は「夜深し」と言われるあかときの直前、まだ天地は幽暗に包まれているが、やがて鶏はあかときを告げるだろう。東の方向が白んでいるから。

この絵は旧大家の広島・浅野家旧蔵のもので、現在は東京国立博物館のコレクションである。鳥インフルエンザの影響で、鶏たちは今、受難の時代だが、犬や猫、馬よりも、もっとわれわれの身近に飼われていた。人々も、その生態を知り尽していただろう。時には穏和、時には闘争心むき出しの、しかも家父長的な権威を見せつける鶏は、画き甲斐のある画題として、失われた絵画も含めれば、恐らく数限りないであろう。（加藤類子）



蘿窓筆 竹鶏図（重文）東京国立博物館

コレクション・ギャラリーの小企画

10月3日(火)―11月5日(火)

(毎月曜日および10月10日(火)休館)

「洋画」に見る日本的感性

本館の3階企画展示室、1階展示ロビー、4階常設展示場の一部において「プライス・コレクション 若冲と江戸絵画」が開催されています。プライス氏の選画眼のただ者ではないことに驚かされますが、一方、18世紀の画家若冲の西洋的な感性にも驚かされます。

さて、本館の「洋画」コレクションには、須田國太郎、梅原龍三郎などの作品があります。彼らは、主題に日本的なものを選んだだけでなく、創作の根底で、西洋と日本における絵画の発達の相違に苦しみ、その総合、あるいは日本化を生涯のテーマに制作しました。もっと以前の、明治時代には沢辺清五郎、田中善之助といった洋画家たちが、日本の風俗を油絵で表すことに精力を傾け、太平洋戦争後の新しい洋画家たちも、日本的感性をかれ

らの作品の中で追求しました。若冲とは逆の立場での、明治以降の洋画家たちの苦闘を見ていただきたいと思えます。



田中善之助《少女像》

友の会の催し

京表具―その扱いとワークショップ

日時：12月10日(日)

会場：当館1階講堂

定員：60名

入場料：無料

<都路華香展>開催中にあたります。京都表装協会の皆さんにお願いして、京表具の基礎、表具の扱いなどを講習してもらいます。その後、都路華香の作品を実例に、表具に用いる布や紙の取り合わせを勉強したいと思います。

芸大生によるクリスマス・コンサート

6月の<藤田嗣治展>の開催に因んで開かれたコンサートは、大盛況でした。コンサートホールでない当館展示ロビーでの開催は、外の夕暮れなどの相乗効果もあり、味わいのあることでも好評ですが、一年が経過して、

いろいろ問題点が浮上して参りました。コンサートの開催は、定着をめざして今後も続けてゆきます。

さて、今秋はプライス・コレクション展の会場の都合で、秋のコンサートはできませんでした。12月のクリスマス・コンサートは、12月23日(土・祭)に、また、ニューイヤー・コンサートは2007年1月13日(土)に開催の予定です。

友の会会員を募集しています!

友の会には年会費5,000円(学生は3,000円)でご入会いただけます。また、美術館をサポートしていただくため、年会費20,000円の特別会員、年会費一口100,000円の法人会員へのご入会もお願いしています。本館の展覧会その他の事業へのご参加のほか、他の国立美術館常設展へもご入場いただけます。この機会に是非ご入会下さい。

- 開館時間
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 夜間開館
4月15日(金)―9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、
及び年末年始
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)

※お車で越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

● 交通案内



独立行政法人国立美術館

京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900

ホームページ <http://www.momak.go.jp>